

共催セミナー



ランチオンセミナー1 LS1

2月18日(木) 12:25~13:25

第1会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 長野)

Santen

解説 井上 幸次 先生 (鳥取大学)

解説 深川 和己 先生 (両国眼科クリニック)

解説 島崎 潤 先生 (東京歯科大学市川総合病院)

—司会— 大橋 裕一 先生 (愛媛大学)

—司会— 西田 幸二 先生 (大阪大学)

Ready Go!

角膜王決定戦!
涙の6番勝負

症例から学ぶOcular Surface診療

Answer Check!

皆さん、思わず頭を抱えてしまうような難症例に遭遇した経験はお持ちですか。観察しやすいことも手伝って、安易に治療が行われ、病態が複雑化しているケースが少なからず見受けられます。角膜スペシャリストとして、そのような症例に出会う機会はきっと多いのではないかと思います。

そこで、本セミナーでは、角膜領域のオーソリティ3名をお招きし、先生方が実際に経験された難症例をご提示いただくとともに、これらの悩ましい症例から得られた教訓と実戦的な治療戦略をご伝授していただく予定です。

会場にお越しの先生方にはマルチアナライザーを用いて、「オールスター感謝祭」方式で、難症例の解決に挑戦していただきます。お招きした3名のオーソリティをもうならせる“角膜王”が、このセミナーで誕生することでしょう!?

「我こそは真の角膜王なり!」との自負を秘かにお持ちの先生方、奮ってご参加ください!

共催：参天製薬株式会社

ランチョンセミナー2 LS2

2月18日(木) 12:25~13:25

第2会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間EF)

講演
①



コンタクトレンズ関連の
感染症を未然に防ぐための
レンズケア選択と患者指導

久保田 泰隆 先生

くぼた眼科

講演
②



CL 関連角膜感染症の
背景因子と治療の実際

稲田 紀子 先生

日本大学

座長



外園 千恵 先生

京都府立医科大学

座長抄録

近年、カラーコンタクトレンズによる角膜感染の増加が問題視されています。感染症を発症した患者には、不適切なコンタクトレンズ (CL) ケアや、「安いから」という安易な理由で CL ケア用品が選択されていることが多く見受けられます。しかしながら、適切な CL ケアについての患者指導、また CL 角膜感染症に遭遇したときの診断・治療については日々悩ましいところです。

本講演では、CL ケアとユーザーの実態、多目的用剤 (MPS)・過酸化水素消毒剤などの CL ケア剤の特徴と選択基準、適正使用を促す患者指導のポイントについて、久保田先生に解りやすく解説頂きます。また、感染症スペシャリストである稲田先生には、日々の診療で遭遇する CL 関連角膜感染症についてココだけはおさえておきたい！診断と治療のポイントについて講義頂きます。本セミナーが、明日から CL 角膜感染症に立ち向かう先生方にとって有意義な機会となれば幸いです。

「ココはおさえておきたい！」 上手なCLケアと CL合併症対策

共催：角膜カンファランス2016・日本アルコン株式会社

日本アルコンは Alcon Novartis Hida Memorial Award を通じて眼科医療の発展をサポートしています。

Alcon

a Novartis company

PMJ130-1
201512

© 2015 Novartis

共催：日本アルコン株式会社

共催セミナー

ランチョンセミナー3 LS3

2月18日(木) 12:25~13:25

第3会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間CD)

2016年2月18日(木)

12:25 開講

第3会場(浅間CD)

ラ デルニエール クラス

La Dernière Classe -最後の、授業-

角膜疾患へのトーリックIOLの応用



座長

清水 公也 先生

北里大学



助手

宮田 和典 先生

宮田眼科病院

私事ではあるが、眼科医を生業とし、色々なことを経験しながら40年が経過した。その間、眼科医学は大きな進歩を遂げてきた。しかし、第一線を退くつもりとしては、次の10年、次の100年の発展に更なる期待をしたい。

そこで、本セミナーを私からの最後の授業と位置づけ、次世代を担う術者たちへ事前に課題を与えることとした。テーマは、私自身がかつて開発に携わったトーリックIOLである。

森洋斉先生へ与えた課題は、各種トーリックIOLの術直後の回転成績である。個々のレンズの特性を明らかにし、それぞれに適した対処法を提示することを期待している。根岸一乃先生への課題は、新しい検査装置であるiTraceTMサージカルワークステーションを用いたトーリックIOLの適応基準である。瞳孔径に合わせた円柱度数決定も盛り込んでもらうこととした。三宅俊之先生には、トーリックIOLを適応し良好な術後成績が得られた円錐角膜症例を紹介するよう伝えてある。

本セミナーでは、各々の成果を敢えて厳しい目で見せてもらうつもりである。安心して後進に道を譲れるのか? いやいや、まだもうひと頑張りしなければならぬのか? ご来場の皆さまと一緒に楽しみたいと思う。

私が、武蔵野赤十字病院で清水先生の最初の生徒になったのは30年前。

以来、師の背中を追いかけて、臨床・研究の研鑽を積んできました。今回、教えを受けた弟子の代表として、清水先生の最後の授業をお手伝いさせていただきます。

よろしく申し上げます。

演者

森 洋斉 先生

宮田眼科病院

各種トーリックIOLの
術後回転成績

根岸 一乃 先生

慶應義塾大学

眼内レンズ挿入眼の
瞳孔径と乱視矯正

三宅 俊之 先生

北里大学

円錐角膜へのトーリックIOLの
使用成績

共催：HOYA株式会社 メディカル事業部

ランチオンセミナー4 LS4

2月18日(木) 12:25~13:25

第4会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間AB)

ソフトコンタクトレンズと涙液層との 層別相互作用を探求する

座長／演者



京都府立医科大学
横井 則彦 先生

Profile

1984年 京都府立医科大学卒業
1986年 京都府立医科大学助手
1989年 京都府立医科大学大学院
1995年 京都府立医科大学講師
1996年 英国オックスフォード大学留学
1999年 京都府立医科大学助教授(現 准教授)

眼表面の涙液層は、大きく分けて油層と液層の二層からなるが、開眼時には、両層が動的に密接な関係を保ちながら、涙液層を形成し、開眼維持時には、油層とムチンゲルとしての液層は、それぞれの機能を保ちながら、平滑な光学面の形成、眼表面上皮の乾燥防止、ひいては、眼表面の恒常性維持に働いている。しかし、眼表面にソフトコンタクトレンズ(SCL)が装着されると、形成された涙液層の構築は大きく変化し、SCL表面の涙液層には、破壊が生じやすくなり、SCL装着眼の快適性を阻む大きな要因となる。一方、装着されたSCLは、涙液層の構成成分と様々な相互作用を有し、特に涙液中の脂質、タンパク質、糖タンパク質と、分子同士の関係を持つ。さらに、点眼液やクレンジングオイルに含まれる界面活性剤や化粧品のお脂とも相互に作用し合うことがあり、SCLの装着は直接的あるいは間接的に涙液層を障害する要因となりうる。そこで、本セミナーでは、涙液層を油層と液層に分け、SCLと各層との相互作用、および、SCLと各層を構成する成分との直接的あるいは間接的な相互作用について考えてみたい。是非、この機会にSCLが涙液層に及ぼす影響について、理解をさらに深めていただければと思います。

演者



杏林大学
山田 昌和 先生

Profile

1986年 慶應義塾大学医学部卒業、同眼科学教室入局
1993年 Duke大学アイセンター研究員
1998年 慶應義塾大学眼科学講師
2003年 国立病院機構東京医療センター感覚器センター 部長
2013年 杏林大学眼科学教授



東邦大学医療センター大森病院
堀 裕一 先生

Profile

1995年 大阪大学医学部卒業 大阪大学医学部眼科学教室入局
2001年 米国ハーバード大学 スケベンス眼研究所 研究員
2006年 大阪大学医学部眼科 助手(助教)
2009年 東邦大学医療センター佐倉病院眼科 講師
2011年 東邦大学医療センター佐倉病院眼科 准教授
2014年 東邦大学医療センター大森病院眼科 教授

Johnson & Johnson
JOHNSON & JOHNSON K.K.
VISION CARE COMPANY

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー

イブニングセミナー1 ES1

2月18日(木) 19:05~20:35

第2会場~第4会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間)

角膜!
ナイトスcoop
in 軽井沢

Santen

局長 井上幸次先生 (鳥取大学)
最高顧問 大橋裕一先生 (愛媛大学)
顧問 清水公也先生 (北里大学)
秘書 小泉範子先生 (同志社大学)

局長のメッセージ
角膜カンファレンスの名物企画「角膜! ナイトスcoop」が、今年もやってきました! 当セミナーは先生方が日頃抱いている眼科にまつわる様々な謎や疑問に鋭いメスを入れ、当探偵局の優秀な探偵たちが真相を究明する「楽しく学べる教育型セミナー」です。今回も4名の精鋭なる探偵が全国の眼科医から寄せられた疑問・難問・珍問の真実に迫ります。
調査内容については、大橋裕一最高顧問、清水公也顧問から鋭く厳しい、時にはあたたかい“つつこみ”を頂戴しながら、局長こと私、井上と小泉範子秘書で楽しく進めてまいります。
はたして、名探偵の調査結果はいかに? あるいは彼らは迷探偵にすぎないのか? 探偵の調査内容を審査いただくのは参加していただく皆さんです。角膜カンファレンス初日の夜は“角膜! ナイトスcoop”で大いに盛り上がりましょう!

優秀な探偵の紹介

主席探偵 笠井真央先生 (高知大学)
田聖花先生 (東京歯科大学市川総合病院)
半田知也先生 (北里大学)
森悠大先生 (筑波大学)

調査依頼

百聞は一涙にしかず、、、涙はウソをつかない!? **探偵** 半田知也先生 (北里大学)

栄枯盛衰は世の習い!? ~防腐剤のルーツを探る **探偵** 笠井真央先生 (高知大学)

全治全能!? 関西に伝わる謎の秘薬 **探偵** 田聖花先生 (東京歯科大学市川総合病院)

魅力的な目とは? ~世界に誇る日本のアニメ文化に学ぶ~ **探偵** 森悠大先生 (筑波大学)

共催：参天製薬株式会社

モーニングセミナー1 MS1

2月19日(金) 8:00~9:00

第1会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 長野)

Santen

眼表面に優しい

治療を目指して!

座長



坪田 一男 先生
(慶應義塾大学)



高村 悦子 先生
(東京女子医科大学)

現在、多くの点眼液には防腐剤としてベンザルコニウム塩酸塩(BAK)が含まれています。BAKは高い界面活性作用により細菌の細胞膜を融解し、高い防腐効果を示す上に、水に溶けやすく、室温でも長期安定であり、点眼薬には適した防腐剤です。その一方で、他の防腐剤に比べ細胞障害性が強いことも報告されています。現在処方可能なBAK含有の点眼液は、安全性に関して、勿論、問題がないことから承認を受けているのですが、ドライアイやアレルギー性結膜炎のようなオキュラーサーフェス疾患に対し、また頻回、長期に使用する点眼液では眼表面への影響についても留意が必要です。

本セミナーでは、点眼液に含まれるBAKが涙液動態や眼表面にどのような影響を及ぼすかについて、そしてBAKフリーになったドライアイ治療点眼液および抗アレルギー点眼液の有用性や臨床における期待も含め3名のエキスパートの先生にそれぞれ解説していただきます。ご聴講の先生方の明日からの診療に是非ともお役立ていただき、患者様の治療満足度を上げていただければと思います。

講演 1

眼表面に優しい治療を目指して
～涙液動態と
細胞毒性の点から～



横井 則彦 先生 (京都府立医科大学)

講演 2

眼表面に優しい治療を目指して
～アレルギー性結膜炎～



福島 敦樹 先生 (高知大学)

講演 3

眼表面に優しい治療を目指して
～ドライアイ～



渡辺 仁 先生 (関西ろうさい病院)

共催：参天製薬株式会社

モーニングセミナー2 MS2

2月19日(金) 8:00~9:00

第2会場(軽井沢プリンスホテル ウェスト 浅間EF)



マイボーム腺と角結膜の カンファレンス 2016

座長



木下 茂 先生
京都府立医科大学

マイボーム腺や角結膜疾患は日常診療でもっともよく遭遇する疾患であり、これらの疾患に関する研究は目覚ましい進歩を遂げています。しかし、実臨床においては病態の原因究明や鑑別診断、治療の選択に悩まれることも少なくないのではないのでしょうか。そこで今回は、診療のヒントを皆さまと共有できればと考え、昨年の角膜カンファレンスで多くの先生方のご参加を賜りました「マイボーム腺と角結膜のカンファレンス」の続編として、本セミナーを企画させていただきました。重安千花先生からはコンタクトレンズ装用で起こりうる眼表面粘膜の目に見えない異常について、鈴木智先生からは自覚症状から考えたマイボーム腺と眼表面異常の治療について、小幡博人先生からは病理の観点から霰粒腫と麦粒腫の鑑別について、そして稲富勉先生からは角結膜の癬痕性変化を見逃さないためのポイントについてお話しいただく予定です。本セミナーが皆さまの日常診療の一助となることを願い、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

演者

講演1
ムチンに注目！
コンタクトレンズに伴う
ドライアイ

重安 千花 先生
杏林アイセンター



講演2
MOSで捉える！
眼表面の異常

鈴木 智 先生
京都市立病院



講演3

やはり難しい！
霰粒腫と麦粒腫の鑑別

小幡 博人 先生
自治医科大学



講演4

見逃したくない！
角結膜の癬痕性変化

稲富 勉 先生
京都府立医科大学



共催：大塚製薬株式会社

モーニングセミナー3 MS3

2月19日(金) 8:00~9:00

第3会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間CD)



角結膜治療 最新治療 アップデート

抄録

—昨年からシリーズで角膜治療の最新知見をお届けしている本セミナーも第三回を迎え、本年は新たに結膜までテーマを広げて、『角結膜治療最新アップデート』として、開催させていただきます。

角結膜疾患は様々あれども、我々日本人の多くを悩ませているのが花粉症に代表されるアレルギー性結膜疾患です。

近年、免疫療法などの新たな治療法も提唱されていますが、その治療はまだまだセルフケアと対症療法が中心です。

そこで、今回はアレルギー領域を代表して佐竹先生、角先生のお二人にこれから迎える花粉シーズンにどうやって立ち向かっていくか、セルフケアと薬物治療の観点からお二人の最近の研究をお話しいただく予定です。

今回のセミナーが先生方のこれからの診療のお役に立つ情報となれば幸いです。

座長



榎村 重人先生
慶應義塾大学

演者①



角 環先生
高知大学

演者②



佐竹 良之先生
東京歯科大学市川病院

共催：角膜カンファレンス2016・日本アルコン株式会社

日本アルコンは Alcon Novartis Hida Memorial Award を通じて眼科医療の発展をサポートしています。

Alcon

a Novartis company

PMI 321-1
201512

© 2015 Novartis

共催：日本アルコン株式会社

モーニングセミナー4 MS4

2月19日(金) 8:00~9:00

第4会場(軽井沢プリンスホテル ウェスト 浅間AB)

モーニングセミナー
MS4

角膜を触らない 屈折矯正手術

日時:2016年2月19日(金曜日)8:00~9:00

場所:軽井沢プリンスホテル ウェスト 第4会場(浅間AB)



座長 清水公也先生
(北里大学)

屈折矯正手術といえばレーシックに代表的される角膜を削る等非可逆的に手をいれる手術が一般的ですが、一時期年間50万件近くも行われていたレーシックも、美容系眼科での事故やインターネット上でいわゆるレーシック難民による合併症を訴えるネガティブな情報発信により急速に信頼を失い、2013年末に消費者庁より出された注意喚起により一昨年は5万件を割り込む程減少したと言われております。これはひとたび角膜に手を付けると、たとえ可能性が小さくても、何か問題があった場合は非可逆性ゆえに戻せないことが問題を大きくしているように思います。また周知の通り、現在は十分な性能の人工角膜というものが存在せず、移植という選択肢は非常にハードルの高いものとなっています。

一方フェイク眼内レンズ手術であるICLは屈折矯正手術の中でも術後視機能が角膜屈折矯正手術よりも優れているだけでなく、問題があればレンズの抜き交換が容易であり可逆的な手術である点が安心です。更に本邦で開発が行われ近年登場した孔つきICL KS-APは、従来ICL手術の問題であったレーザー虹彩切除の必要性や、術後白内障発症の問題を解消しました。

本セミナーでは屈折矯正手術が世界で最も盛んな国の一つである韓国からイ・ギョンホン先生にお越しいただき、孔つきICL KS-APがもたらした自験をお話頂く予定です。また、市川先生にはレーシックを中止した理由を、五十嵐先生にはレーシックを始めとする各種角膜屈折矯正手術とKS-APとの比較をお話頂く予定です。

一人でも多くの先生方に聴講いただき術式導入の参考になれば幸いです。



演者 イ・ギョンホン先生
(ソンモ眼科病院)

Lee, Kyung Heon /
Sungmo Eye Hospital, Korea

孔なしICLからKS-APIに
なって変化した指針



演者 市川一夫先生
(中京眼科)

私がLASIKをやめて
KS-APを選択する理由



演者 五十嵐章史先生
(北里大学)

角膜屈折矯正手術と
KS-APの比較



共催: スター・ジャパン合同会社

ランチョンセミナー5 LS5

2月19日(金) 11:10~12:10

第1会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 長野)

第2回 全国角膜選手権2016

司会



大橋 裕一 先生
(愛媛大学)

アシスタント



佐々木 香る 先生
(星ヶ丘医療センター)



ごあいさつ

大橋 裕一(愛媛大学)

昨年からはじめた「全国角膜選手権」では、全国から選りすぐった挑戦者チームに角膜エキスパート出題のクイズへチャレンジしていただきました。経験豊富なエキスパートからの出題に「なるほど!」と唸られるとともに、熱いディスカッションを楽しまれたことと思います。2回目を迎える今年は少しシナリオを変更し、第1部としてエキスパートからの出題に「早押し」で挑んでいただいた後、第2部では挑戦者チームからエキスパートの先生方へ診断治療に難渋した相談症例を呈示していただき、その「頑張り度」を競うこととしました。

角膜エキスパートは皆さまよくご存知の、木下、坪田、井上、西田の各教授です。挑戦者チームには昨年堂々優勝の宮田眼科病院チーム、学会主催校である北里大学チーム、そして関西から兵庫医科大学チームをお招きしています。角膜カンファレンスの昼下がりの時間、アシスタントの佐々木香る先生とともに、ご参加いただいた先生方が楽しみながら学べるセミナーにしたいと思います。

バージョンアップした第2回角膜選手権。この3チームの健闘を是非見に来てください。

角膜エキスパート



井上 幸次 先生
(鳥取大学)



木下 茂 先生
(京都府立医科大学)



坪田 一男 先生
(慶應義塾大学)



西田 幸二 先生
(大阪大学)

(50音順)

挑戦者チーム

北里大学チーム

五十嵐 章史 先生
小橋 英長 先生
高橋 正英 先生

兵庫医科大学チーム

細谷 友雅 先生
宮永 久美子 先生
森松 孝亘 先生

宮田眼科病院チーム

小野 喬 先生
子島 良平 先生
森 洋斉 先生

(50音順)

SENJU

共催：千寿製薬株式会社

ランチョンセミナー6 LS6

2月19日(金) 11:10~12:10

第2会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間EF)

進化する角膜手術 術中OCTとFSレーザーで何が変わるのか?

座長：清水 公也 先生(北里大学 教授)
演者：神谷 和孝 先生(北里大学 准教授)
 佐竹 良之 先生(東京歯科大学市川総合病院 講師)
共催：角膜カンファランス2016
 カールツァイスメディテック株式会社



清水 公也 先生

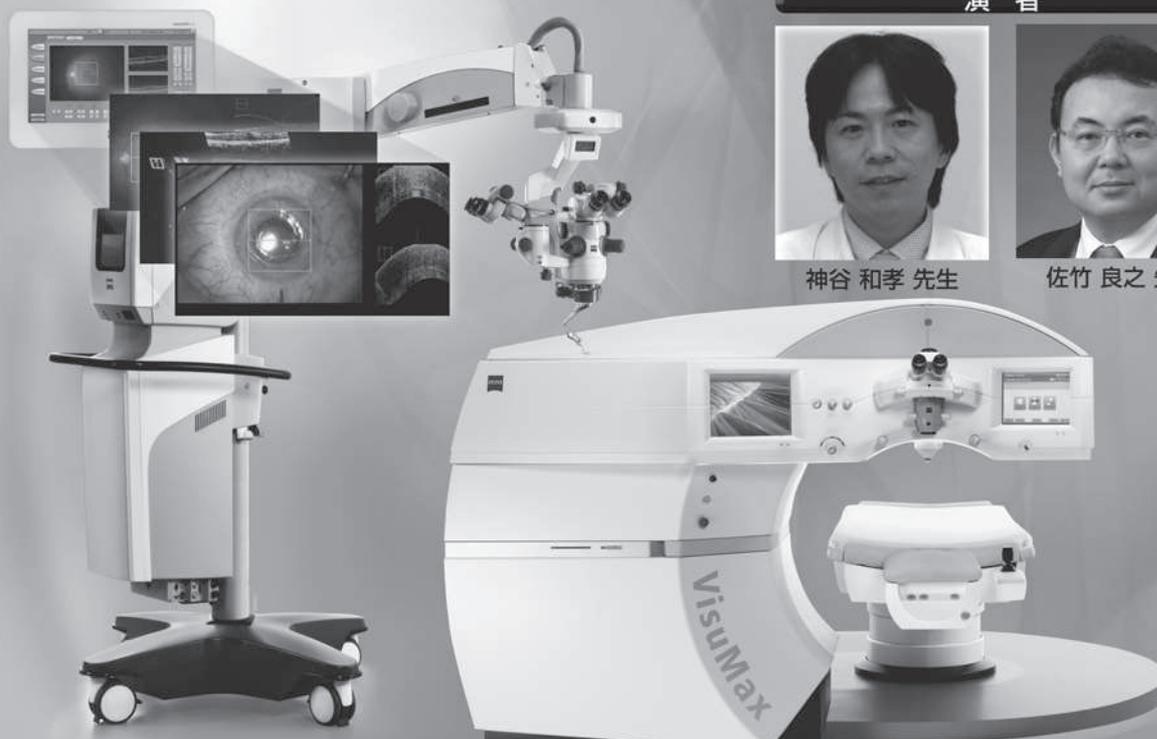
座長の言葉

従来の全層角膜移植に加えて、近年では各疾患や症例に応じた角膜パーツ移植も普及し、手術手技は多様化している。さらに、フェムトセカンドレーザーを用いた角膜切開や移植片の加工、術中に角膜断面像を確認することのできるOCT内蔵の顕微鏡などが登場し、最新テクノロジーを用いた角膜移植術が広がりを見せている。本セミナーでは、演者のお二人に、OCT内蔵顕微鏡「RESCAN 700」とフェムトセカンドレーザー「VisuMax」を用いた角膜移植術を実際の手術映像を供覧しながら紹介していただく。最新のテクノロジーを駆使した角膜手術で何が変わるのか?ぜひこの機会に角膜移植術に関する新しい知識をアップデートしていただきたい。



神谷 和孝 先生

佐竹 良之 先生



共催：カールツァイスメディテック株式会社

ランチョンセミナー7 LS7

2月19日(金) 11:10~12:10

第3会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間CD)

Otsuka

あなたならどうする? 不定愁訴ケーススタディ -再現VTRから学ぶ-

座長



島崎 潤 先生
(東京歯科大学市川総合病院)

我々が日常診療において治療に苦慮するケースの1つとして‘不定愁訴’があげられます。他覚所見が乏しいにもかかわらず自覚症状を訴える患者を先生方も経験されたことがあるのではないのでしょうか。また、医師側が所見の改善に満足していても患者側は十分に満足していないということも少なくありません。このような‘不定愁訴’を解決するための情報の多くは、丁寧な問診から得られるのではないかと考えます。そこで今回は、ケーススタディシリーズの続編として、問診場面の再現VTRを使って治療のヒントを探していきたいと思います。

横井則彦先生をコメンテーターとしてお招きし、東原尚代先生、有田玲子先生、井上康先生より、実際に日常診療で困った症例や注意すべき症例を持ち寄って解説いただきます。ご参加の先生方にも、日々の診療と重ね合わせて一緒に症例検討をしていただきたいと思います。本セミナーがさまざまな場面での不定愁訴解決への一助となれば幸いです。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

コメンテーター



横井 則彦 先生
(京都府立医科大学)

パネリスト



東原 尚代 先生
(ひがしはら内科眼科クリニック)

パネリスト



有田 玲子 先生
(伊藤医院)

パネリスト



井上 康 先生
(井上眼科)

共催：大塚製薬株式会社

ランチオンセミナー8 LS8

2月19日(金) 11:10~12:10

第4会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間AB)

糖尿病と 眼疾患 アップデート

座長

高橋 浩 先生

日本医科大学 眼科 大学院教授

講演1

オキュラーサーフェスからみた
糖尿病合併症の病態

演者

近間 泰一郎 先生

広島大学大学院医歯薬保健学研究院
視覚病態学 准教授

講演2

糖尿病網膜症の病態と治療

演者

高木 均 先生

聖マリアンナ医科大学 眼科学教室 教授

 **NOVARTIS**
PHARMACEUTICALS

共催：ノバルティス ファーマ株式会社

モーニングセミナー5 MS5

2月20日(土) 8:00~9:00

第2会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間EF)

レーザー角膜手術革命! Part IV レーザー角膜移植10年の発展とこれから



座長

清水 公也 先生(北里大学)

1976年 北里大学医学部卒業、
北里大学医学部眼科学教室入局
1978年 東京大学医学部眼科学教室
1984年 東京大学医学博士
1985年 武蔵野赤十字病院眼科 部長
1998年 北里大学医学部眼科学教室 主任教授

角膜移植にレーザーが応用されるようになってから約10年が経過しました。国内でも厚生労働省がフェムトセカンドレーザーを承認してから6年、角膜移植の分野に与えたインパクトは計り知れません。トレバン・マイクロケラトームから精度・再現性の高いレーザーに移行したことで得られた、従来であれば期待できなかった高い術後視機能など、今では当然となりましたが、角膜移植に関わってこられた先生方にとってはまさに革命だったのではないかと思います。

そこで本セミナーではレーザー角膜移植に精通されている先生方にご登壇いただき、まず神谷和孝先生には角膜移植におけるレーザーの貢献・功績について改めて振り返り総括していただきます。さらに韓国よりお招きするHungwon Tchah先生には、アジア全体での状況なども俯瞰していただきつつ、レーザー導入のメリットが大きいとされる全層角膜移植の今後についても、さらに一歩踏み込んだ内容をご講演いただく予定です。



演者 角膜移植におけるレーザーの功績



神谷 和孝 先生
(北里大学)

1993年 神戸大学医学部医学科卒業
1996年 東京大学医学部眼科学教室 助手
2001年 国立病院機構東京病院眼科 医長
2003年 公立学校共済組合関東中央病院眼科 部長
2006年 北里大学医学部眼科学教室 専任講師
2011年 北里大学医学部眼科学教室 准教授

演者 Femto-PKP: Latest Trends in Asia



Prof. Hungwon Tchah
(University of Ulsan (Korea))

1983-1986 Residency, Department of Ophthalmology, Seoul National University Hospital, Korea
1986-1989 Postgraduate Medical Doctor program, Seoul National University, Korea
1987-1989 Research Fellowship, Department of Ophthalmology, University of Minnesota, USA
1989-current Professor, Department of Ophthalmology, University of Ulsan, Seoul, Korea
1989-current Faculty Ophthalmologist, Director, Cornea/Anterior Segment/Refractive Surgery, Department of Ophthalmology, Asan Medical Center, Seoul, Korea

Abbott
A Promise for Life

20160220Abstract

共催：エイエムオー・ジャパン株式会社

モーニングセミナー6 MS6

2月20日(土) 8:00~9:00

第3会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間CD)

角膜カンファランス 2016 モーニングセミナー6

涙液油層の動態を 観察する!

2016年2月20日(土) 8:00~9:00

第3会場 (浅間 CD)



座長

木下 茂先生

京都府立医科大学

10年の時を経て、DR-1がDR-1 α へとグレードアップして還ってきました。本セミナーでは、涙液層別診断のスペシャリストである横井則彦先生にTFODとTFOTの最新情報を、有田玲子先生には、MGD診療におけるDR-1 α の持つポテンシャルについて講演をいただきます。皆さん、新しいDR-1 α ワールドを覗いてみませんか?



講演 1

涙液油層の動態観察で行うTFOD&TFOT

横井 則彦先生

京都府立医科大学



講演 2

Let's DR-1 α ! ~こんなにわかる涙液動態の不思議~

有田 玲子先生

伊藤医院

共催：角膜カンファランス 2016  興和創薬株式会社

共催：興和創薬株式会社

モーニングセミナー7 MS7

2月20日(土) 8:00~9:00

第4会場(軽井沢プリンスホテル ウエスト 浅間AB)

視機能評価症例報告会 ～トポと収差解析の活用～

座長のことば

平成28年度診療報酬改訂に対する重点項目に「精密視力検査」が要望として出されたのですが諸般の状況により、実現するのはなかなか難しいようです。しかし、コントラスト、高次収差、実用視力などのfunctional visionなど従来の検査では把握できない見づらさなどが把握できる検査の重要性は今後益々高まることが予想されます。

今回の共催セミナーでは、このような視機能評価が他覚的に可能なOPD-ScanⅢを例に、様々な症例を対象に「精密視力検査」の実際について報告していただきます。演者には経験豊富な玉置明野さん(中京病院眼科 視能訓練士/信州大学大学院総合工学系研究科)と根岸一乃先生(慶應義塾大学医学部眼科学教室 准教授)をお願いしました。昨今の視機能矯正治療法の進歩とともに進歩してきた「精密視力検査」や「手術前後での活用」の実際及び工夫を凝らしたその内容について解りやすく症例を交えてお話ししていただく予定です。明日からの診療に役立つセミナーに、多くの先生方及びコメディカルの方々の参加をお待ちしています。

座長



Kohji Nishida

西田 幸二先生

大阪大学大学院医学系研究科
脳神経感覚器外科学(眼科学) 教授

演者



Akeno Tamaoki

結果の理解に困ったら、
OPDを撮ってみませんか?

～測定のコツとポイント～

玉置 明野氏

中京病院眼科 視能訓練士
/信州大学大学院総合工学系研究科

演者



Kazuno Negishi

OPDスキャンによる前眼部疾患評価

根岸 一乃先生

慶應義塾大学医学部眼科学教室 准教授

共催：株式会社ニデック